

岡崎城**総堀**跡 発掘調査公開中!!

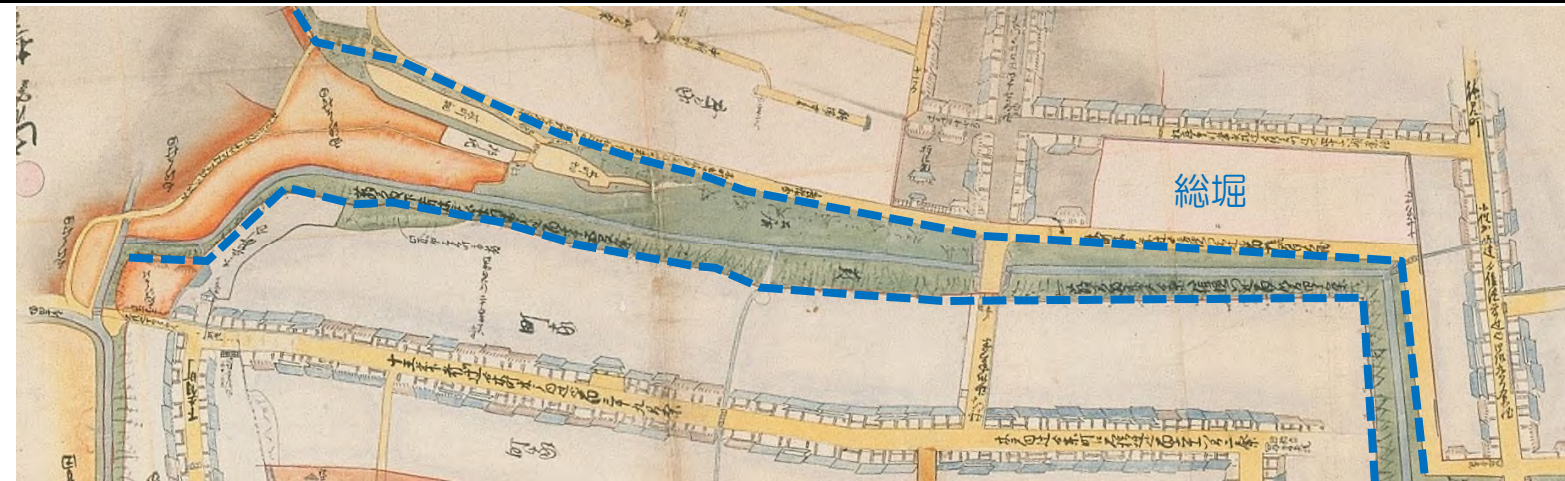
～消えた総堀を追え! その②御旗公園～

2019

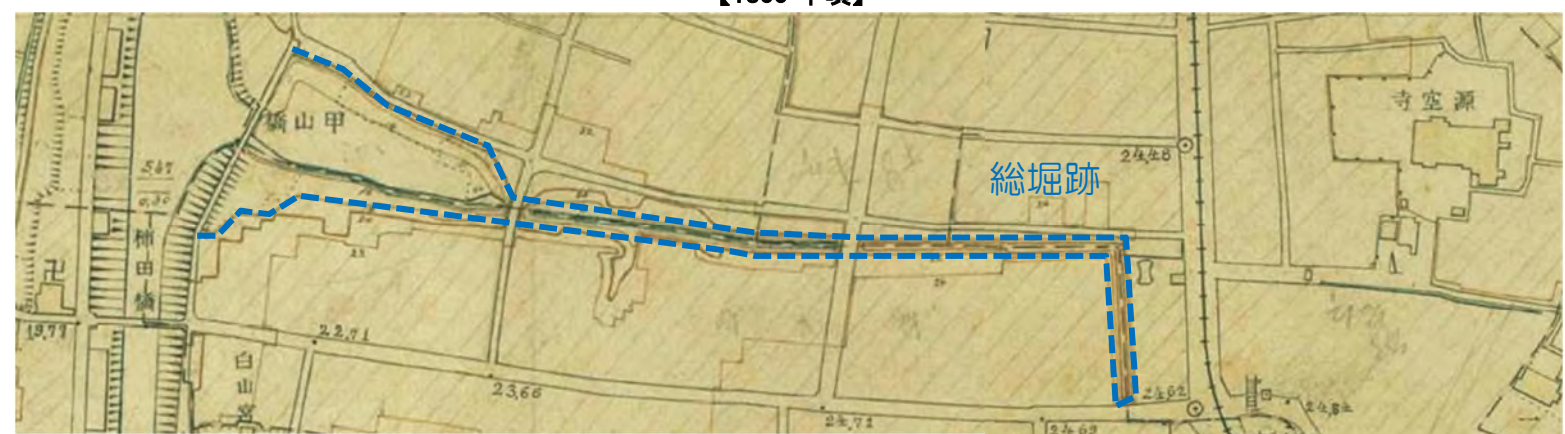
1/7〔月〕

1/23〔水〕

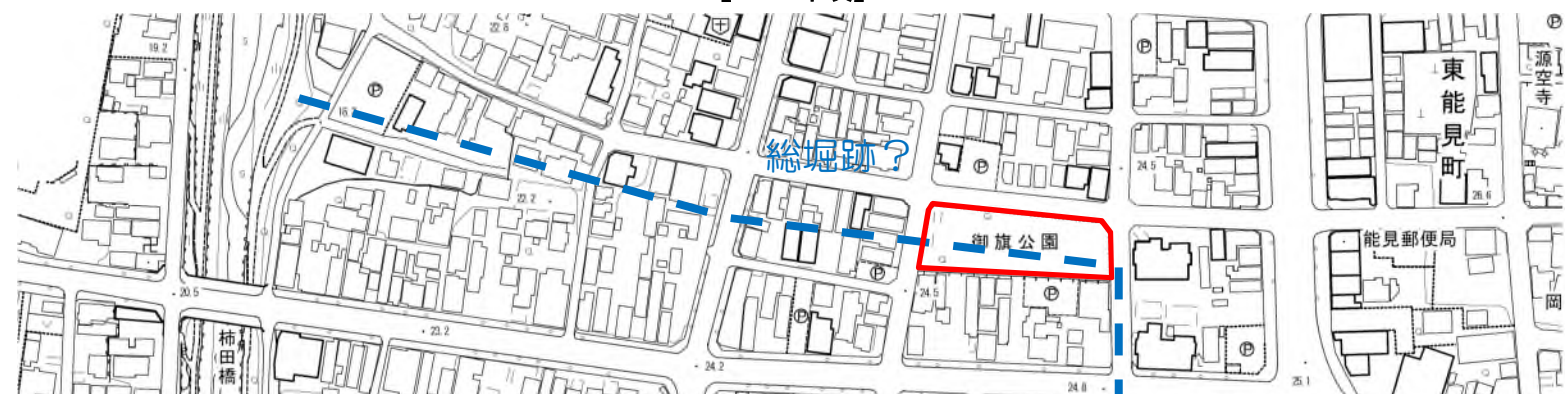
※調査は平日のみ。※雨天中止。



【1800年頃】



【1930年頃】



【2017年】

現地説明会 1/19〔土〕 11:00 / 13:00

※現場公開 10:00～14:00 ※直接現地**御旗公園**へ。※荒天中止 (HP 掲載)。

※岡崎市教育委員会社会教育課岡崎城跡係 TEL: 0564-23-7270



過去の発掘調査関係



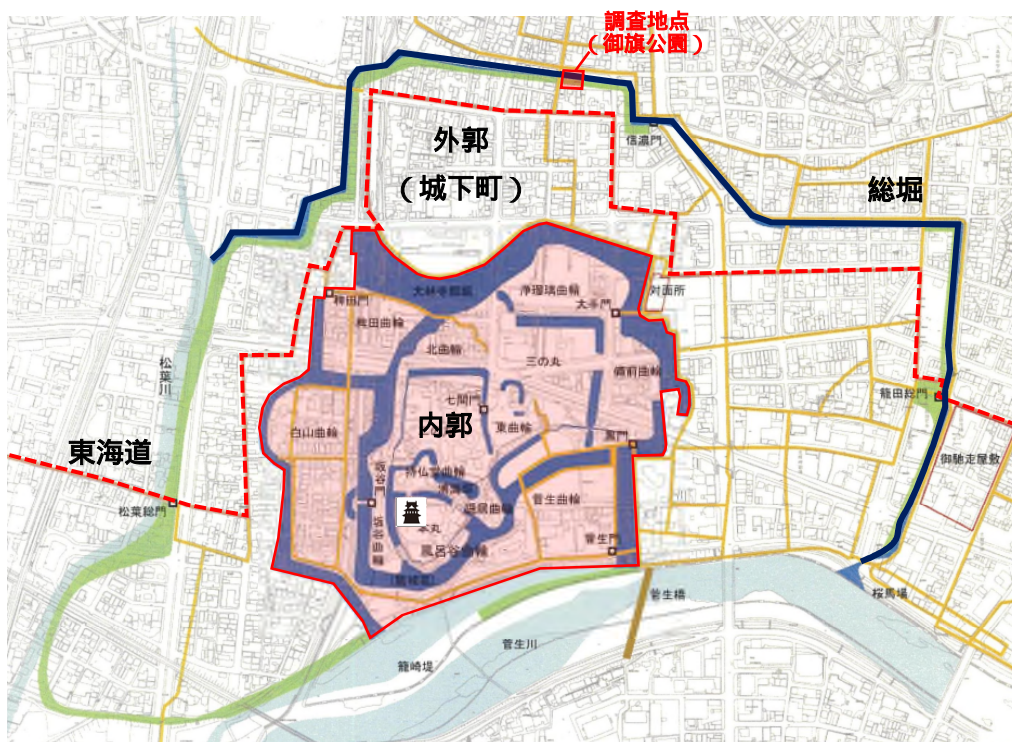
岡崎城跡整備計画
石垣マップ等

城郭における総堀とは？

城のほか城下町一帯も含めて外周を堀や石垣、土塁で囲い込んだ城郭構造を「総構え（そうがまえ）」といいます。この総構えを構成する外堀のことを特に「総堀」といいます。

岡崎城の総堀について

天正 18（1590）年に岡崎城主となった田中吉政は、城郭拡張と城下町建設を進めます。城下町を造成し商人を移住させ、それまで菅生川（乙川）の左岸の明大寺を通っていた東海道を城下の町屋部分に引き入れます。そして城下町を「総堀」により取り囲み総構えを構築しました。総構えは城郭の最外郭にあたり、軍事的な防衛上の意味があります。一方で、城下町の特権区域を示すものという見方もあります。



城郭合わせ図

消えた総堀と発掘調査

総堀は江戸時代の様々な絵図に描かれますが、明治時代以降は総構えの機能が不要になったため総堀は徐々に姿を消していきます。そして、わずかに残っていた総堀の痕跡も戦後復興の区画整理事業により埋められたため、往時の姿はほとんど見えなくなってしまいました。また、区画整理事業により地割が変わったことで総堀の推定すら困難になってしまいました。

岡崎城が総堀まで含めて城域であったことを証明すべく、総堀の痕跡を発掘調査で明らかにすることを今回の調査の目的としています。

発掘調査現場の公開

発掘調査状況を随時公開しています。フェンスの外から発掘調査状況をご覧ください。危険です。フェンスの中には入らないようお願いいたします。(中に入れるのは現地説明会時のみとなります。)発掘調査期間中はご迷惑をおかけしますが、調査への御理解と御協力のほどお願いいたします。